

劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

(平成30・31年度 2か年分)

団 体 名	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
施 設 名	彩の国さいたま芸術劇場
助 成 対 象 活 動 名	蜷川レガシーの継承と芸術文化による地域づくり・社会包摂機能の強化
助 成 期 間	3 (年間)
内 定 額	平成30年度 59,973 平成31年度 55,424 (千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名） 蜷川レガシーの継承と芸術文化による地域づくり・社会包摂機能の強化

アウトカム

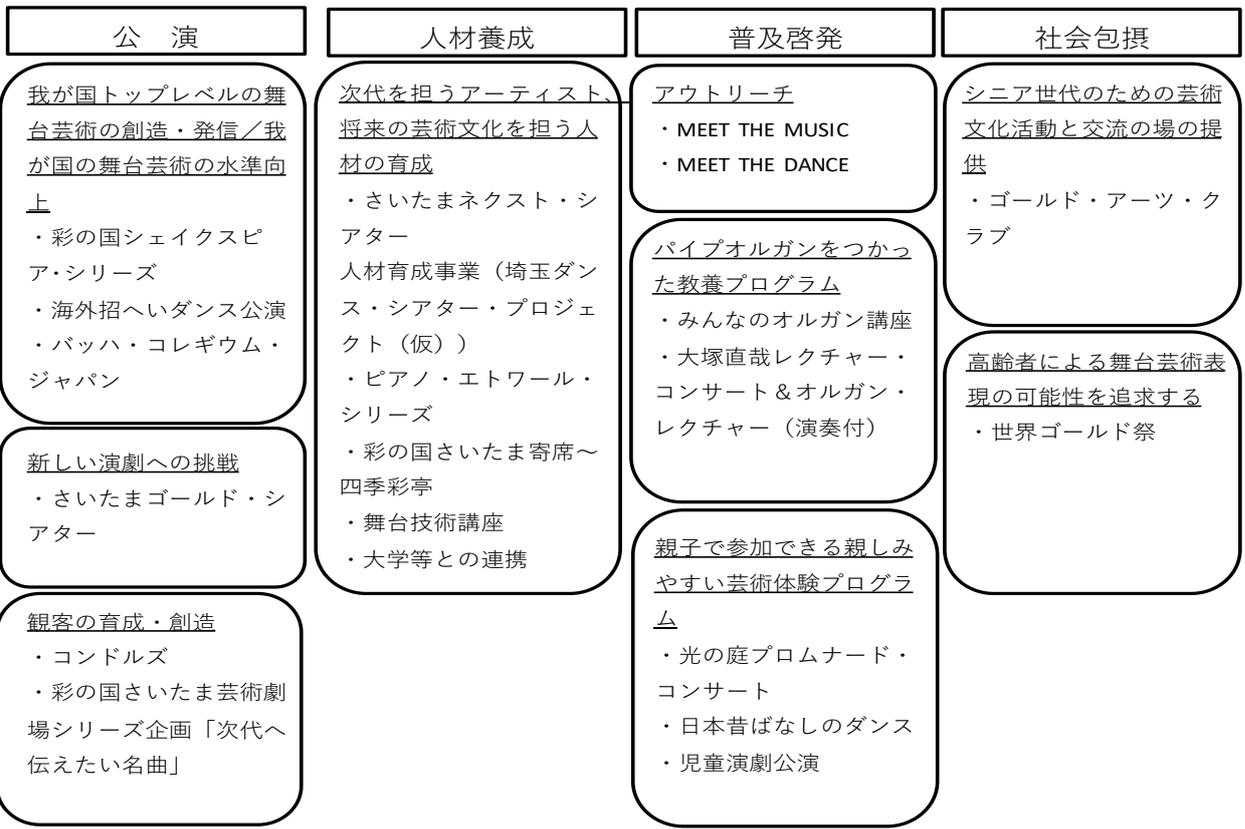
人々の心豊かな生活の実現
地域の活性化とコミュニティの強化・再生

芸術文化の水準向上
芸術文化の裾野の拡大

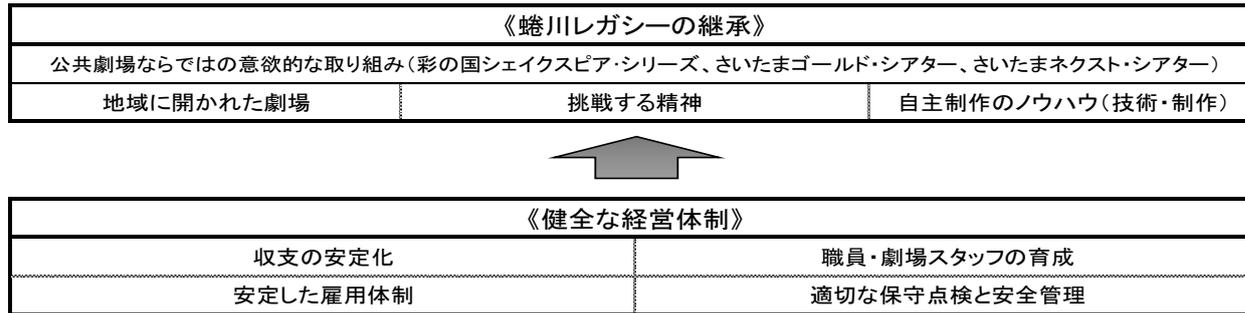
アウトプット

- ・多様な人々が芸術文化活動へ参加できる
機会の創出
- ・芸術文化による東京2020オリンピック・パラ
リンピック競技大会への機運の醸成
- ・埼玉県の魅力創造と発信
- ・首都圏をはじめ全国から鑑賞者が来場
- ・地域における芸術文化の鑑賞者の増加
- ・芸術文化の担い手の増加
- ・生き生きと暮らす高齢者（＝アクティブ
シニア）の増加
- ・子どもの頃から良質な芸術文化体験がで
きる機会の増加

活動



インプット



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	彩の国シェイクスピア・シリーズ 第35弾 『ヘンリー八世』	令和2年2月13日(木) ～2月27日(木)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]阿部寛、吉田鋼太郎 他 [スタッフ]演出：吉田鋼太郎 作：W. シェイクスピア 翻訳：松岡和子 他 ※新型コロナウイルスの影響により2月28日(金)～3月1日(日)は公演中止	目標値	12,688
					実績値	10,450
2	さいたまゴールド・シアター ×さいたまネクスト・シアター 『蜷の綿 -Nina's Cotton-』 リーディング公演	平成31年10月13日(日) ～10月15日(火)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]さいたまゴールド・シアター、 さいたまネクスト・シアター [スタッフ]作：藤田貴大 演出：井上尊晶 他	目標値	1,380
					実績値	1,225
3	彩の国さいたま芸術劇場× マームとジプシー 『CITY』	平成31年5月18日(土) ～5月26日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]柳楽優弥 他 [スタッフ]作・演出：藤田貴大 他	目標値	4,320
					実績値	5,682
4	コンドルズ埼玉公演2019 新作	平成31年5月11日(土) ・12日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]コンドルズ(16人) [スタッフ]構成・映像・振付：近藤良平 他	目標値	1,711
					実績値	1,857
5	ディミトリス・パパイオアヌー 『Great Tamer』	平成31年6月28日(金) ～6月30日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]パヴリナ・アンドリオブル 他 [スタッフ]コンセプト・ビジュアル・演 出：ディミトリス・パパイオアヌー 他	目標値	1,140
					実績値	2,195
6	バットシェバ舞踊団 『VENEZUELA』	-	-	新型コロナウイルスの影響により公演中 止	目標値	1,711
					実績値	-
7	バッハ・コレギウム・ジャパン J.S.バッハ《マタイ受難曲》	平成31年4月13日(土)	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者]鈴木雅明(指揮)、キャロリン・ サンブソン、松井亜希(ソプラノ)、ダミ アン・ギヨン、クリント・ファン・デア リンデ(アルト)、櫻田 亮(テノール：福 音史家)、谷口洋介(テノール)、クリステ イアン・イムラー、加末 徹(バス)、バッ ハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)	目標値	513
					実績値	563
8	さいたまネクスト・シアター	平成31年7月18日(木) ～7月28日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)	[出演者]さいたまネクスト・シアター他 [スタッフ]作：ガンナム・ガンナム 翻訳：渡辺真帆 演出：眞鍋卓嗣 他	目標値	1,300
					実績値	1,119
9	人材育成事業	平成31年8月17日(土) ～8月31日(土)	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)	講師：湯浅永麻、小尻健太	目標値	20
					実績値	22
10	彩の国さいたま寄席 ～四季彩亭	平成31年4月27日(土)他	彩の国さいたま芸術劇場 小ホール	[出演者]古今亭志ん輔(ゲスト)、三遊亭 鬼丸、林家つる子、立川吉笑、柳亭市若 他	目標値	1,100
					実績値	1,260
11	ピアノ・エトワール・シリーズ	平成31年6月16日(日)他	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者(アンコール! Vol.8)] 萩原麻 未 [出演者(Vol.37)] アルトゥール&ルー カス・ユッセン [出演者(Vol.38)] 新型コロナウイルス の影響により公演中止	目標値	1,413
					実績値	1,083
12	舞台技術講座	平成31年8月7日(水) ～令和2年2月7日(金)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他	講師：当劇場技術スタッフおよび外部講 師 ※新型コロナウイルスの影響により劇 場・音楽堂等職員対象分は中止	目標値	200
					実績値	58
13	大学等との連携 (インターンシップ、講師派遣)	通年	彩の国さいたま芸術劇場 他	講師：当財団職員	目標値	40
					実績値	66

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	MEET THE MUSIC～ アーティストが学校に やってくる！	平成31年9月6日(金) ～令和2年1月17日(金)	[出演者]金管五重奏 他 ※台風および新型コロナウイルスの影響により鶴ヶ島市立西中学校開催分は中止	目標値	300
		鳩山町立亀井小学校 他		実績値	255
15	光の庭プロムナード・ コンサート	平成31年4月20日(土) ～12月21日(土)	[出演者]長谷川美保(オルガン)&座古瑞穂(和太鼓) 他 ※新型コロナウイルスの影響により第113回公演は中止	目標値	1,600
		彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ		実績値	1,910
16	みんなのオルガン講座	平成31年9月1日(日) ～令和2年2月23日	講師：大塚直哉、大木麻理	目標値	80
		彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 他		実績値	118
17	大塚直哉 レクチャー・コンサート	平成31年7月7日(日) ・令和2年2月2日(日)	[出演者]大塚直哉(オルガン、チェンバロ、お話)、若松夏美(バロック・ヴァイオリン)	目標値	786
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール		実績値	639
18	MEET THE DANCE～ アーティストが学校に やってくる！	平成31年9月9日(月) ～令和2年2月21日	講師：山田うん、川合ロン、藤田善宏	目標値	350
		吉川市立中央中学校 他		実績値	550
19	劇場体験ツアー	平成31年8月22日(木) ～8月25日(日)	[出演者]さいたまネクスト・シアター [スタッフ]彩の国さいたま芸術劇場 技術スタッフ	目標値	360
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	355
20	バリアフリーセミナー	-	新型コロナウイルスの影響により中止	目標値	120
		-		実績値	-
21	ゴールド・アーツ・クラブ	平成31年11月3日(日・祝) ～12月22日(日)	[出演者]ゴールド・アーツ・クラブ 他 [スタッフ]脚本・演出：ノゾエ征爾 他	目標値	600
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他		実績値	724

(3) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	彩の国シェイクスピア・シリーズ 第34弾『ヘンリー五世』	平成31年2月8日(金) ～2月24日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]松坂桃李、吉田鋼太郎 他 [スタッフ]演出:吉田鋼太郎 作:W.シェイクスピア 翻訳:松岡和子 他	目標値	12,000
					実績値	14,958
2	さいたまゴールド・シアター	平成30年5月10日(木) ～5月20日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)	[出演者]さいたまゴールド・シアター・ユニット [スタッフ]構成・演出:岩井秀人 他	目標値	1,300
					実績値	1,207
3	コンドルズ埼玉公演2018 新作	平成30年5月20日(土) ・21日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]コンドルズ(16人) [スタッフ]構成・映像・振付:近藤良平 他	目標値	1,753
					実績値	1,880
4	イスラエル・ガルバン 『黄金時代』	平成30年10月27日(土) ・28日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]イスラエル・ガルバン ヴォーカル:ダビ・ラゴス ギター:アルフレッド・ラゴス [スタッフ]振付:イスラエル・ガルバン 他	目標値	1,140
					実績値	907
5	フィリップ・ドゥクフレ/ DCA『新作短編集(2017) - Nouvelles Pièces Courtes』	平成30年6月29日(金) ～7月1日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	[出演者]カンパニーDCA [スタッフ]演出・振付:フィリップ・ドゥクフレ 他	目標値	1,711
					実績値	1,449
6	彩の国さいたま芸術劇場 シリーズ企画「次代へ伝えたい 名曲」(第13回、第14回)	平成30年5月12日(土) ・平成31年2月24日(日)	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者(第13回)]荒井英治、戸澤哲夫(ヴァイオリン)、小野富士(ヴィオラ)、藤森亮一(チェロ) [出演者(第14回)]清水和音	目標値	906
					実績値	678
7	バッハ・コレギウム・ジャパン J.S.バッハ 《クリスマス・オラトリオ》	平成30年11月24日(土)	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者]鈴木雅明(指揮)、ハナ・ブラシコヴァ(ソプラノ)、クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)、ザッカリー・ワイルダー(テノール)、クリスティアン・イムラー(バス)、バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)	目標値	483
					実績値	581
8	さいたまネクスト・シアター	平成30年6月23日(土) ～7月1日(日) 他	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)	[演目]『ジハード —Djihad—』 『第三世代』 [出演者]さいたまネクスト・シアター 他	目標値	1,950
					実績値	2,032
9	人材育成事業	平成30年8月1日(水) ～8月11日(土)	彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)	講師:湯浅永麻、小尻健太	目標値	20
					実績値	25
10	彩の国さいたま寄席 ～四季彩亭	平成30年4月14日(土) 他	彩の国さいたま芸術劇場 小ホール	[出演者]林家正蔵、入船亭扇好、古今亭文菊、林家たま平、春風亭昇りん 他	目標値	1,100
					実績値	1,228
11	ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol. 34-36)	平成30年6月10日(日) 他	彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール	[出演者(Vol. 34)]シャルル・リシャール=アムラン [出演者(Vol. 35)]ダニエル・シュー [出演者(Vol. 36)]レミ・ジュニエ	目標値	1,359
					実績値	1,390
12	舞台技術講座	平成30年8月8日(水) ～平成31年3月27日(水)	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 他	講師:当劇場技術スタッフおよび外部講師	目標値	200
					実績値	80
13	大学等との連携 (インターンシップ、講師派遣)	通年	彩の国さいたま芸術劇場 他	講師:当財団職員	目標値	40
					実績値	50

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	MEET THE MUSIC～ アーティストが学校に やってくる！	平成30年10月12日(金) ～平成31年2月8日(金)	[出演者]金管五重奏 他	目標値	300
		久喜市立鷺宮小学校 他		実績値	284
15	光の庭プロムナード・ コンサート (第99回～第105回)	平成30年5月19日(土) ～平成31年3月23日(土)	[出演者]徳岡めぐみ(オルガン)&片岡詩 乃(ハープ) 他	目標値	1,500
		彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ		実績値	2,110
16	みんなのオルガン講座	平成30年8月26日(日) ～平成31年3月10日(日)	講師：大塚直哉、大木麻理	目標値	80
		彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 他		実績値	192
17	大塚直哉 レクチャー・コンサート& オルガン・レクチャー (演奏付)	平成30年9月2日(日)・ 平成31年1月20日(日)	[出演者]大塚直哉(オルガン、チェンバ ロ、お話、講師)、島田真千子(ヴァイオリ ン)	目標値	224
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 他		実績値	639
18	MEET THE DANCE～ アーティストが学校に やってくる！	平成30年11月1日(木) ～平成31年2月15日(金)	講師：北村明子(ダンサー・振付家)、藤田 善宏(ダンサー・振付家)	目標値	80
		埼玉県戸田市立美笹中学校 他		実績値	376
19	日本昔ばなしのダンス	平成31年2月23日(土) ・2月24日(日)	[出演者(つるのおんがえし)] 稲村はる、宮内愛、山口夏絵 [出演者(かさじぞう/てんぐのかくれみの)] 鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平 [スタッフ]演出・振付：近藤良平、山口夏絵 他	目標値	512
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)		実績値	672
20	新作児童演劇公演	平成30年4月29日(日) ～5月6日(日) 他	[演目]めにみえない みみにしたい [出演者]伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑 美、長谷川洋子 [スタッフ]作・演出：藤田貴大 他	目標値	1,080
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 他		実績値	1,383
21	劇場体験ツアー	平成30年12月23日(日) ～12月26日(水)	[出演者]さいたまネクスト・シアター [スタッフ]彩の国さいたま芸術劇場 技術ス タッフ	目標値	240
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	337
22	ゴールド・アーツ・クラブ	平成30年7月31日(火) ～10月8日(月・祝)	[演目]病は気から [出演者]ゴールド・アーツ・クラブ 他 [スタッフ]脚本・演出：ノゾエ征爾 他	目標値	500
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	782
23	世界ゴールド祭	平成30年9月24日(月・祝) ～10月8日(月・祝)	[実施内容] (1)海外の高齢者カンパニーによる公演 (2)さいたまゴールド・シアター共同制作公演 (3)シンポジウム (4)ワークショップ 他	目標値	2,000
		彩の国さいたま芸術劇場 他		実績値	5,898

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

○当劇場は「創造・発信」「人材養成・普及啓発」「芸術文化活動への支援」「社会包摂」の4つを劇場の役割と位置づけ、これらを複合的に推進しながら「芸術文化による心豊かな生活と活力ある地域社会づくりを実現する」「我が国の芸術文化の水準向上と永続的な発展に寄与する」という2つのミッションの達成(＝アウトカム)に挑戦している。事業計画の初年度となる平成30年度は、軽微な変更はあるものの、概ね予定どおり実施することができ、アウトカムの発現に向けて順調に進められているものと自己評価する。

○平成31年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止にかかる国および埼玉県からの要請を受け、2月28日以降に予定されていたすべての自主事業をやむを得ず中止することとなり、当該年度の助成対象事業についても、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」など7事業11公演を中止とした。ただし、その他の事業については概ね予定どおり実施することができており、事業計画全体に齟齬は生じていないと考えている。

○看板事業である「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、二代目芸術監督の吉田鋼太郎の演出・出演により『ヘンリー五世』(平成30年度)と『ヘンリー八世』(平成31年度)を上演したほか、世界のトップ・アーティストによる最新作を上演するなど多様なニーズに応えるラインナップで、観客層のさらなる拡大と我が国の舞台芸術水準の向上に資することができた。

○平成30年度は「さいたまネクスト・シアター」による新シリーズ「世界最前線の演劇」と「さいたまダンス・ラボラトリ」という人材養成プログラムを立ち上げ、若手俳優・ダンサーの育成を図った。また、若手落語家や国内外の若手ピアニストによる公演を継続的に実施し、次世代が活躍できる土壌づくりに寄与した。そのほか、埼玉県高校演劇連盟と連携し、高校生を対象とした舞台技術研修会を実施し、未来の舞台芸術を担う人材の養成にも取り組んだ。

○どなたでも無料で参加できる「光の庭プロムナード・コンサート」は第99回から第112回までを開催。普段クラシックに馴染みのない方や劇場の存在を知らない方にも、気軽に劇場に足を運ぶきっかけを提供することで、多くの方々に芸術文化や劇場の活動・魅力についての理解促進が図れた。また、プロのアーティストを県内小中学校へ派遣するアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!」「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる!」を実施するなど地域における芸術文化の普及啓発にも積極的に取り組んだ。

○社会包摂では、「さいたまゴールド・シアター」の成果を踏まえ、世界的に見ても先駆的取組である高齢者による舞台芸術の国際芸術祭「世界ゴールド祭」を埼玉県との共催により実施した(平成30年度)。市内の駅周辺では地元商店街の協力を得て屋外パフォーマンスを開催し、芸術文化による地域づくりにも貢献した。また、「1万人のゴールド・シアター2016」をきっかけに平成29年に発足した60歳以上による芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」では、第1回公演(平成30年度)と次回公演に向けた演劇ワークショップ(平成31年度)を開催し、多くの高齢者に舞台芸術を通じた自己表現の場を提供し、世代を超えた交流が生まれた。

自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

○前述の取り組みには助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるものと自己評価する。

(2) 有効性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

○本事業計画ではアウトカムの発現を目的に7つの目標と8つの指標を定めた。芸術文化の領域ではその性質上、事業実施による成果を短期間で数値的に表すことが困難である。また、当劇場は唯一の県立劇場であることから、一部の地域だけでなく県全体で効果を計るという観点から、県が作成した「埼玉県文化芸術振興計画 2016-2020」における指標や全県調査等複数年に渡る変化を観察できる指標を引用し、それらの指標を参照することで3年間の事業計画の成果を計測する考えである。

○本事業計画では「蜷川レガシーの継承」と「社会包摂機能の強化」に主眼を置いている。「蜷川レガシーの継承」として「彩の国シェイクスピア・シリーズ」をはじめとした創造・発信事業を柱としながら、世界の先鋭的なダンス作品の招聘公演や人材養成事業、普及啓発事業など複合的なプログラムを展開することにより、我が国の芸術文化水準の向上と裾野の拡大に寄与できると考えている。

裾野の拡大という視点では、「彩の国シェイクスピア・シリーズ『ヘンリー五世』」(平成30年度)、「彩の国さいたま芸術劇場×マームとジプシー『CITY』」「ディミトリス・パパイオアヌー『Great Tamer』」「彩の国シェイクスピア・シリーズ『ヘンリー八世』」(平成31年度)といった事業において、来場者アンケートの集計結果からおおよそ30%~40%の方が「今回初めて当劇場で鑑賞した」と答えており、新たな鑑賞者層の開拓にも成果をあげていると自己評価する。

○「社会包摂機能の強化」を図る事業としては、「世界ゴールド祭」を平成30年度に初開催した。マスメディアにも多数取り上げられ、参加者数2,000人以上という目標を大きく上回る5,898人が参加し、国内外の高齢者による舞台表現を通して、社会の高齢化の在り方や舞台芸術の可能性について考えるきっかけをつくることができた。また、60歳以上の会員約1,000人を擁する「ゴールド・アーツ・クラブ」では、平成30年度に738名が参加してノゾエ征爾の脚本・演出による第1回公演を行い、翌平成31年度には724名が参加して演劇ワークショップを行った。参加者アンケートによると、満足度はそれぞれ98.0%(平成30年度)、96.8%(平成31年度)という高い結果を得られた。また、参加してよかった理由として、「達成感があった」のほかに、「生活の張り合い(意欲・目標)ができた」や「新しい友達(仲間)ができた」といった演劇を楽しむこと以外の部分で充足感を得られていることもわかった。こうした効果をより科学的見地から客観的に裏付けるため、平成31年度から東北大学との共同研究にも取り組み始めた。

埼玉県は全国で最も早いスピードで高齢化が進んでいるが、芸術文化活動を通じてシニア世代の活力や創造性が豊かになることで、地域が活性化し、ひいては地域コミュニティの強化・再生にも効果が及ぶものと考えている。

○各指標に対する自己評価は以下のとおりである。

1. 芸術文化活動を鑑賞している県民の割合

計画策定時(平成27年度) 56.3% → 最新値(平成31年度) 55.9% → 目標値(平成32年度) 65.0%

県の調査において、毎年度の数値が変動する指標であるが、最新値は計画策定時よりも微減しており、より一層の努力を要する分野であると考えている。

ただし、当劇場においては、有料公演の入場率は上昇傾向にあり、一定の成果をあげられたものと考えている。

【参考データ】有料公演の入場率

(平成29年度) 88.7% → (平成30年度) 91.8% → (平成31年度) 91.8%

2. 芸術文化活動を行っている県民の割合

計画策定時（平成 27 年度） 26.4% → 最新値（平成 31 年度） 32.3% → 目標値（平成 32 年度） 33.0%
計画策定時より 5.9%増加し、アウトカムの発現に向けて順調に前進した。

3. 県民の芸術文化活動の機会や環境の満足度

計画策定時（平成 28 年度） 満足している 37.8%

→ 最新値（平成 31 年度） 37.9% → 目標値（平成 32 年度） 満足している 40.0%

最新値は計画策定時より微増した。なお、当劇場における自主事業の公演満足度は高い水準を達成している。

【参考データ】公演満足度

（平成 29 年度） 98.5% → （平成 30 年度） 98.5% → （平成 31 年度） 98.6%

4. 演劇・ダンス・音楽等を趣味・娯楽として親しむ県民数

・ 10 歳～64 歳 計画策定時（平成 28 年度） 3,139 千人 → 目標値（平成 33 年度） 3,233 千人

・ 65 歳以上 計画策定時（平成 28 年度） 969 千人 → 目標値（平成 33 年度） 1,017 千人

最新値は次回調査（令和 3 年）で算出されるため、データなし。

当劇場においては、総入場者数（鑑賞および稽古場利用等のすべてを含む）は増加傾向にあり、一定の成果があげられたものと考えている（ただし、平成 31 年度は新型コロナウイルスの影響により若干減少）。

【参考データ】総入場者数

（平成 29 年度） 338,935 人 → （平成 30 年度） 359,983 人 → （平成 31 年度） 334,117 人

5. 埼玉県健康寿命

計画策定時（平成 26 年） 男性 16.96 年／女性 19.84 年

→ 最新値（平成 26 年） 男性 17.57 年／女性 20.36 年 → 目標値（平成 33 年） 男性 17.63 年／女性 20.26 年
男性、女性ともにのびており、女性は最新値がすでに目標値に達している。

6. 埼玉県、さいたま市の観光入込客数

・ 埼玉県 計画策定時（平成 28 年度） 158,085 千人

最新値（平成 30 年度） 163,002 千人 → 目標値（平成 32 年度） 173,893 千人

・ さいたま市 計画策定時（平成 28 年度） 24,006 千人

最新値（平成 30 年度） 25,724 千人 → 目標値（平成 32 年度） 26,406 千人

埼玉県、さいたま市ともに計画策定時よりも増加が見られ、アウトカムの発現に向けて順調に前進した。

7. 将来就きたい職業（埼玉県）

計画策定時（平成 28 年度） 音楽家などの芸術家 8.6%、俳優など 1.9%

→ 目標値（平成 33 年度） 音楽家などの芸術家 10.0%、俳優など 3.0%

最新値は次回調査（令和 3 年）で算出されるため、データなし。

8. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への県民の関心度

計画策定時（平成 28 年度） 関心が高い 55.9%

→ 最新値（平成 31 年度） 関心が高い 64.6% → 目標値（平成 32 年度） 関心が高い 70%

計画策定時より 8.7%増加し、アウトカムの発現に向けて順調に前進した。

(3) 効率性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

平成30年度

○入場者数・参加者数は目標の30,478人に対して、実績は39,094人と大きく上回る結果となった。「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は当初19回公演で12,687人の入場者を見込んでいたが、チケット販売が好調であったことから追加公演を行い、最終的な入場者数は14,958人であった。また、「世界ゴールド祭」は芸術文化を通じて社会とより積極的に関わるというコンセプトから、劇場内のみならず野外でのパフォーマンスを制作・実施した結果、普段劇場に足を運ばない県民を巻き込むことができ、前掲のとおり2,000人以上という目標を大きく上回る5,898人が参加した。事業期間に変更はなく、当初の狙い以上のアウトプットが表れていると自己評価する。

○助成対象経費の総額は予算額315,012,000円に対して、決算額は284,463,574円であった。変更額は▲30,548,426円で、当初の予定より事業費を9.7%抑えることができた。海外招聘作品については、国内の複数の劇場と連携してツアー公演を組むことで、各館の費用負担を下げる工夫をしている。今年度の「フィリップ・ドゥクフレ／カンパニーDCA『新作短編集(2017) —Nouvelles Pièces Courtes』」は当劇場のほかに北九州芸術劇場とびわ湖ホールを巡回し、「イスラエル・ガルバン『黄金時代』」は名古屋市芸術創造センターでも公演を行った。また、「ゴールド・アーツ・クラブ」は当初500人の参加見込みに対して、59,030,000円の支出を見込んでいた。参加者を募集した結果、見込みの約1.5倍の738人が参加することとなったが、稽古の運営体制等を工夫することで舞台費等を抑えることができ、実績報告時の支出は48,810,733円であった。事業費を適切に執行しながら、事業内容の質を落とすことなく事業計画を進めることができたとして自己評価する。

平成31年度

○入場者数・参加者数は目標の31,732人に対して、実績は30,131人であった。新型コロナウイルス感染症の拡大防止にかかる国および埼玉県からの要請を受け、2月に公演中だった「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では残り4公演を中止とし、約3,000枚を払い戻し対応したことが目標未達の大きな要因となった。2月28日以降、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」を含む7つの助成対象事業の一部または全部の公演を中止し、事業期間は実質的に1ヶ月程度短くなった。一方で、当劇場オリジナル企画である「彩の国さいたま芸術劇場×マームとジプシー『CITY』」と、初来日公演となった「ディミトリス・パパイオアヌ『Great Tamer』」では、企画内容や広報・宣伝が奏功し、それぞれ目標を1,000人以上上回る好結果を残すことができた。不測の事態が伴いながらも、目標に対して95%程度の入場者・参加者を集められたことは、積極的に自己評価できる。

○助成対象経費の総額は予算額285,108,000円に対して、決算額は234,900,420円であった。変更額は▲50,207,580円で、当初の見込みより17.6%減少した。新型コロナウイルスの影響により公演の一部または全部が中止となった7事業のみで見ると、出演料等の助成対象経費は約40,000千円減っており、これが総額にも大きく影響したと考えられる。「さいたまゴールド・シアター×さいたまネクスト・シアター『蜷の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演」や、「さいたまネクスト・シアター」公演は、いずれも俳優の身体表現に重きを置いた演出で好評を得られたが、同時に舞台費を当初の想定より大幅に抑えることができた。作品の質を落とすことなく、事業費を適切に執行していると自己評価する。

(4) 創造性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

○平成18年より当劇場の芸術監督を務めてきた蜷川幸雄氏が平成28年6月に逝去された。以降当劇場では蜷川氏の遺したレガシーの継承を方針として、制作グループの要であるエグゼクティブ・プロデューサーを中心に事業展開をしている。

○蜷川氏が創設した2つの演劇集団「さいたまゴールド・シアター」と「さいたまネクスト・シアター」について氏は生前から「演劇部門の両輪」と位置付けており、氏の逝去後も活動を継続することとした。

「さいたまゴールド・シアター」は平成18年の結成以来、高齢社会を背景に社会的にも大きな注目を集めており、訓練されたプロの俳優とは異なり生活者のリアルを背負って舞台に立つ姿は演劇界に新しい風を吹き込んだ。平成30年度は劇団ハイバイの岩井秀人を構成・演出に迎え、自身に起きた出来事を自ら台本化し演じる「ワレワレのモロモロ」に挑戦し、冷蔵庫の買い替えといった日常的な出来事から過酷な戦争体験まで6つのエピソードを舞台化し、彼らの人生のドラマを生々しく表現した。一方、2009年に発足した若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」は、設立から2年目・3年目に発表した作品で2年連続読売演劇大賞の優秀作品賞を受賞するなど躍演劇界に頭角を現した。平成30年度は「世界最前線の演劇」と称する新シリーズを立ち上げ、世界の紛争地域から生まれる優れた現代劇2作品に挑戦した。演出はそれぞれ瀬戸山美咲、中津留章仁が手掛け、気鋭の演出家との創作を通じて俳優としての更なるレベルアップを図るとともに、劇団としても新機軸を打ち出すことができた。

平成31年度は、「さいたまネクスト・シアター」によるシリーズ「世界最前線の演劇」の第3弾として『朝のライラック』(作:ガンナム・ガンナム)を真鍋卓嗣の演出により上演し、世界の優れた同時代戯曲を紹介するとともに、演劇を通じた異文化理解の促進に寄与した。なお、同シリーズで上演した『ジハード—Djihad—』(作:イスマエル・サイディ/翻訳:田ノ口誠悟)、『朝のライラック』(翻訳:渡辺真帆)は、小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した。また、「さいたまゴールド・シアター」と「さいたまネクスト・シアター」の合同公演として、『蜷の綿—Nina's Cotton—』リーディング公演(作:藤田貴大)を実施した。本作は、「演出家・蜷川幸雄」の半生がモチーフとなっており、平成28年2月に蜷川氏自身の演出による上演を予定していたが、氏の体調不良により公演延期となっていた。劇場の開館25周年という節目に、両劇団が蜷川氏ゆかりのスタッフとともにリーディング公演として立ち上げ、氏の功績に改めて光を当てるとともに、その足跡を通じて戦後の日本現代演劇の歴史を振り返り、次世代への継承と発展を図った。

○ダンス部門では開館以来世界の最先端の舞台表現を紹介してきた。「ダンスのさいたま」は当劇場のもう一つの顔であり、引き続きダンス専門のプロデューサーを中心として当劇場ならではのプログラムを実施していく。平成30年度は平成26年、28年にも当劇場で来日公演を行ったフィリップ・ドゥクフレとカンパニーDCAによる最新作『新作短編集(2017)—Nouvelles Pièces Courtes』とフラメンコ界の革命児イスラエル・ガルバンによる代表作『黄金時代』を招聘し、世界のダンスシーンを牽引するアーティストによる作品の鑑賞機会を提供した。近藤良平率いるコンドルズとは平成18年以来継続して当劇場オリジナル作品を創作・上演しており、ダンスの鑑賞者層を拡大する取り組みにも力を入れている。また、子どもと大人が一緒に楽しめる人気ダンスシリーズ「日本昔ばなしのダンス」の新作を上演し、親子の対話の機会やダンスに対する興味を深めるきっかけづくりも提供した。

平成31年度は、「コンドルズ埼玉公演2019新作」を上演したほか、海外招聘公演として「ディミトリス・パパ

イオアヌー『Great Tamer』を上演した。アテネ五輪開閉会式の演出を手掛けたディミトリス・パパイオアヌーは、近年世界のダンス、演劇、美術シーンで注目されるアーティストであり、今回が初来日公演となった。ギリシャでの初演以来、アヴィニョンをはじめロンドン、パリ、ロサンゼルス、ソウル、台北等世界 30 都市以上で上演され、各地で高い評価を受けた本作は、ダンスファンのみならず多くの方々の注目を集め、当初予定していた 2 回公演を 3 回に増やし、目標を大きく上回る 2,000 人以上のお客様が来場した。上演後も複数の媒体で舞台評が掲載されるなど大きな反響を呼んだ。世界の最先端の舞台表現の鑑賞機会を提供することで、我が国の舞台芸術の知的水準向上に資することができた。3 月には当劇場ではおなじみのイスラエルを代表するダンスカンパニー・バットシェバ舞踊団による『VENEZUELA』を上演する予定であったが、新型コロナウイルスの影響によりやむを得ず公演中止となった。

○音楽部門では、音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業もあわせて展開することで、鑑賞者のさらなる拡大を図っている。

日本が世界に誇る古楽アンサンブル「バッハ・コレギウム・ジャパン」は、平成 11 年に初登場して以来、毎年継続して公演を行なっており、楽団とホールがともに成長してきた経緯がある。平成 28 年度からは提携契約を結び、公演前の関連企画（曲目解説レクチャー等）を行なうなど普及啓発活動にも努めている。また、平成 30 年度は 5 年目を迎えたリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」の第 13 回、第 14 回を実施し、出演者による関連レクチャーや公開レッスンを行うなど、次世代の育成に資するべく内容の充実を図った。本格的なクラシック音楽を埼玉の地で楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の素晴らしさを国内外に発信した。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

○平成 30 年度に初開催した「世界ゴールド祭」は高齢者による舞台芸術にフォーカスした世界的に見ても珍しい国際芸術祭であるが、新聞・雑誌 44 件、ウェブ 27 件、テレビ 4 件と多くのマスメディアに取り上げていただくことができた。県内のみならず全国的に広報することができ、プログラム内容にも好意的な評価を得られた。

○「さいたまゴールド・シアター」は平成 18 年に 1,200 名以上の応募者の中からオーディションを経て選ばれた 48 名で発足。団塊の世代の大量退職を背景に、劇団は結成当初から社会的な話題となった。劇団員のほとんどが演劇経験のないメンバーにより構成されているが、初年度から「Pro・cess」と称した中間発表公演を実施し、平成 19 年に岩松了の書き下ろし作品『船上のピクニック』で旗揚げ公演を行った。平成 25 年にはパリ日本文化会館からの招請を受け、初の海外公演に挑戦し、唯一無二のパフォーマンスは現地の目の肥えた観客からも絶賛された。さらに翌年には香港、パリ、日本国内 3 か所を巡るツアー公演を成功させた。一連の活動を通じて、「さいたまゴールド・シアター」は高齢者劇団のモデルケースとして全国的に認知され、海外のプレゼンターにも一目置かれる劇団となっており、劇場の認知度や評価の向上にもつながっていると考えられる。平成 30 年度は神奈川県舞台芸術関連事業「共生共創事業～ともに生きる ともに創る～」の開始記念公演として招聘され、県民共済みらいホールにて岩井秀人構成・演出による『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018 春』の改訂版を上演した。

○当劇場は開館当初から、ピナ・バウシュ、ネザーランド・ダンス・シアター、ラララ・ヒューマン・ステップス、ローザス等世界の最先端のダンスをいち早く紹介してきた歴史があり、これまでに県内のみならず県外からも多くのお客様にご来場いただいている。たとえば、バットシェバ舞踊団は平成 9 年の初来日以来、継続して当劇場で公演を実施し、観客数が増えてきたという経緯がある。こうした実績を積み重ねることが、海外の有名カンパニーを招聘しやすくすると考えられ、引き続き海外招聘公演をはじめ、我が国のダンス界を牽引する事業展開を実施していきたいと考えている。

(5) 持続性 (平成30・31年度 2か年分)

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

○劇場の組織活動を支えるのは何よりも人材であることから、当劇場の指定管理者である当財団では平成28年4月1日で対象となる有期契約職員のうち無期契約への転換を希望した全員を無期契約化した。雇用の安定化を図ることで、組織活動を持続的に発展する基盤ができたと考える。

○当財団は埼玉県の100%出資による公益財団法人であり、劇場の事業費の原資となっているのは指定管理料である。しかしそれだけですべての事業費をカバーできないため、民間助成金や協賛金等外部資金の獲得に努めている。特に社会包摂事業はその性質上収入が期待できないため、「世界ゴールド祭」(平成30年度)、「ゴールド・アーツ・クラブ」(平成30・31年度)については民間助成金を活用することで、費用負担を減らしつつ事業内容の充実を図った。また、当劇場は120社(令和2年3月現在)あるサポーター企業からの協賛金にも支えられており、年に1回鑑賞会および懇談会のお場を設け、当劇場の取り組みに対する理解を深めていただくとともに、コミュニケーションを図っている。

○組織活動の持続的な発展には他の劇場・音楽堂等とのネットワークも重要であると考えている。平成30年度に創作初演した演劇『めにみえない みにみしたい』は、翌年北海道から沖縄まで全国14か所を巡るツアー公演を実施し、4,116人を動員した。各地で鑑賞機会を増やすだけでなく、ツアー公演のための助成金が獲得できるといった経済的なメリットもある。また、「フィリップ・ドゥクフレ/DCA『新作短編集(2017) -Nouvelles Pièces Courtes』」(平成30年度)や「ディミトリス・パパイオアヌ『Great Tamer』」(平成31年度)等のダンス公演では、国内の劇場と連携することで、海外からの招聘に係る経費や広報・宣伝費を抑制することができる。県内では、当劇場は平成28年から吉川市、平成30年から東松山市の芸術文化事業に対する支援を行っており、拠点劇場として地域における芸術文化の裾野の拡大にも貢献している。

○教育機関とのネットワークとして、平成13年度より地域におけるアートマネージャー等の人材養成を図るため、地元埼玉大学と連携してアートマネジメント講座を開講している。本講座はインターンシップへの導入講座としても位置付けられており、関心を持った学生は劇場の制作業務を実践的に経験することができる。また、当劇場では、埼玉大学をはじめ日本女子体育大学、跡見学園女子大学等からインターンシップ生を年間10名程度受け入れているが、実際に舞台芸術の現場で活躍する修了生を数多く輩出しており、人材育成面で着実に成果をあげている。

○当財団では指定管理者制度に基づき、組織活動全般について定期的にモニタリングを行い、課題把握と対応策の立案・実施に努めている。四半期および年度終了後には、施策や業務の達成状況を自己評価し、その結果を次年度にフィードバックしており、こうしたPDCAを繰り返し回すことで、劇場の機能強化を図っていくことができるものと考えている。